



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	むすび
Author(s)	山村, 高淑
Relation	『アニメで地域はもっと元気になれる! : アニメを活用したまちおこし活動事例集』埼玉県産業労働部観 光課 地域資源・フィルムコミッション担当 編著 p.13
Issue Date	2011-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/45099">https://hdl.handle.net/2115/45099</a>
Type	article
File Information	yamura_saitama.pdf



## むすび

事例集のむすびとして、全国のアニメ等を活用した地域振興の研究者として著名であり、埼玉県アニメツーリズム検討委員会としても御活躍いただいた、北海道大学観光学高等研究センター准教授山村 高淑氏のコメントを掲載します。新たな取組へのヒントになれば幸いです。

### ■先生はコンテンツツーリズムに関する本(※)を出されるそうですが、その執筆のねらいは何ですか？

※書名：「アニメ・マンガで地域振興～まちのファンを生むコンテンツツーリズム開発法～」

発行所：東京法令出版株式会社（平成23年4月中旬発売予定）



人は物語（コンテンツ）を求めて旅をします。そして物語を共有したとき、はじめて人と人は交流が可能になります。ですから、観光振興や地域振興において重要なのは、世界遺産でも豪華な施設でもなく、人々に愛される「物語」なのだと思います。

実はこうした旅の本質について気付かせてくれたのが、旧鷺宮町との出会いでした。鷺宮では、『らき☆すた』というコンテンツをきっかけに、地域に新たな物語性が付与され、それまでであった歴史や伝統という物語と融合しつつ、町の人々と来訪者との交流が進んでいきました。当時、観光まちづくりの研究に限界を感じていた私は、その経緯を目の当たりにし、まさに救われる思いでした。今まで読んだ観光のどの教科書よりも、人間的な本質がそこにあるような気がしたのです。まずはそうした大切なことを教えてくれた鷺宮町商工会（現・鷺宮商工会）の皆さんはじめ、お世話になった関係者の皆さんに何かご恩返しができないか、そんな思いから執筆を始めました。

### ■コンテンツツーリズムの可能性をどのように考えられますか？

現在、世の中は産業社会から情報社会へと移行しつつあります。もはや「モノ」が豊かであれば幸せ、といった時代ではなく、「モノ」そのものより「コンテンツ」（情報や感性価値）に重きを置く時代になりつつあるのです。そうした傾向が観光の面で表れたのが「コンテンツツーリズム」です。ただ単に「モノ」を見る観光ではなく、その奥にある地域の「物語性」＝「コンテンツ」をじっくり味わう旅です。

コンテンツツーリズムの最大の可能性は、ある物語を共有することで、居住地や、地位・肩書などを超えた交流が可能になる点にあります。つまり、例えば『らき☆すた』が好きなら、町長さんであれ、県庁職員であれ、旅行者であれ、地元の小学生であれ、みんな同じファン。これはアニメに限らず、あらゆるコンテンツについて言えること。そして肩書が消えるからエゴも消える。そこから、コンテンツを核に、みんなで作品を、地域を盛り上げていこうという発想が生まれてくると思うのです。

### ■コンテンツツーリズム成功のポイントとは何でしょうか？

絶対に忘れてはならないのが、作品やキャラクターに対する敬意だと思います。「作品“で”まちおこし」という発想は間違いで、「作品“と”まちおこし」でなければならない。キャラクターに対しても、単なるロゴ的に商品に貼れば良いという発想ではなく、そこに人格を認めてキャラクターと一緒にまちを盛り上げていこうという姿勢が重要だと思います。

そしてそういう姿勢で地域・製作者・ファンが協力し、いろいろな人がその地域に集まって、交流を通して新しい物語を生んでいく。それがさらに地域の物語＝コンテンツに厚みを加えていく。こういう正の循環が地域の魅力と磁力をますます増していくことになるのだと思います。

埼玉県の一連の取り組みは、そうした意味で、本質を突いています。今後もちよ～でいーぶな『コンテンツ観光立県』埼玉県から目が離せません。



埼玉県のマスコット「コバトン」

## 【アニメで地域はもっと元気になれる！】

アニメを活用したまちおこし活動事例集

平成23年3月発行

埼玉県産業労働部観光課 地域資源・フィルムコミッション担当  
(〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1)  
電話：048-830-3957 E-mail：a3950-02@pref.saitama.lg.jp